

令和3年度 学校評価報告書【国立市国立第四小学校】

学校教育目標	◎よく考え進んで学ぶ子 ○自分も友達も大切にする子 ○正しく判断し行動できる子 ○体を鍛え最後までやりぬく子	重点目標	◎よく考え進んで学ぶ子
--------	---	------	-------------

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	分析		改善策	学校関係者評価		
					中間評価	最終評価				
○よく考え進んで学ぶ子	確かな学力の向上を目指す	学習規律の確立	発表の方法を工夫	「はっきりとした返事・立つ・です」ができる児童を90%にする。	B	B	全体的に85%程度が肯定的な回答をしている。どの学年も、「はい・立つ・です」を意識し、ルールが守られた中で授業が行われている。	掲示物等も活用しながら毎時間の授業における学習規律の確認をしていく。できたことを褒めながら、姿勢やチャイム着席等と併せて指導を継続していく。	全学年、授業に取り組む姿勢が素晴らしかった。「はい・立つ・です」がしっかりできていた。	
			自分の考えを発表する機会の意図的な設定	「話す」「発表する」ことに意欲的に取り組む児童を90%にする。	A	A	教職員の約90%が肯定的な回答をしている。特別活動の校内研究を進める中で自分の考えを述べる際「なぜか」と理由を述べることを指導してきた。その成果の一端が現れている。	国立市研究奨励校2年目として、特別活動で培った力を全ての授業で生かせるように、論理的思考力の向上及び育成を進めていく。	全学年、授業に取り組む姿勢が素晴らしかった。はきはきとした発表をしていた。発表の仕方がとても良い。	
		授業改善	問題解決的な学習過程を重視した授業実践。	児童が「めあて」と「振り返り」を意識して授業を受けている。目標数値・・・90%	A	A	授業の「めあて」を児童と共に考え、提示することを全員の教員が毎時間心がけている。管理職の授業観察の際もそういった授業の様子が確認できている。	どの教科・領域においても児童と共に「めあて」を作り、「まとめ」「振り返り」を大切に授業展開を行うことで、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	低学年の授業に取り組む姿勢が素晴らしかった。中・高学年は集中して授業に取り組んでいた。	
			学習習慣の確立	定期的な家庭学習による学習習慣の定着	宿題の提出期限を守る児童を90%にする。	B	B	全体的に80%以上が肯定的な回答をしている。しかし、教員の認識は約75%だったことから、児童と教員との間にややずれがある。家庭学習の習慣確立のために今後も対策が必要である。	学年間で宿題の量や内容を吟味し、定期的に宿題を出すことを継続する。また、保護者と綿密に連絡を取り合いながら、共通理解を図り、進めていく。	どの児童も家庭学習を頑張っており取り組んでいる様子。学校からの家庭への要請も大事でなので、ぜひ続けて欲しい。
				読書活動の充実	定期的な朝読書や読み聞かせを通じた、本に触れる機会の設定	本に触れる機会を増やし、多くの語彙や表現を獲得すると共に、文章を読解する力を養う。目標数値・・・80%	A	A	概ね児童の80%、教員の90%が肯定的な回答をしている。また、これは図書担当・学校司書・非常勤教員が連携し、学期ごとの読書週間や図書委員会児童による取組を行っている成果と考えられる。	読書週間のさらなる充実と児童の興味関心をリサーチしつつ、図書の拡充に取り組んでいく。また学校司書との連携をさらに進める。
豊かな言語環境の整備を進める	「道徳の時間」の充実	言語環境の整備	時と場に応じた言葉づかいに対する児童の自己評価を80%にする。		A	A	概ねの90%の児童、80%の教員が肯定的な回答をしている。言葉遣いは、昨年度に比べてよくなってきている。	教職員自らが児童に話をする際の言葉遣いに注意し、模範となる。また、児童同士の言語環境を整えていく。また、全ての学習活動の中で言語事項に関する指導を充実させる。	児童同士の言葉遣いで気になるときがある。今後さらに指導を充実させ言語環境を整えてほしい。	
		あいさつの励行	児童の自己評価による「あいさつ」の励行を90%にする。	B	B	概ね児童の70%、教員の65%が肯定的な回答をしている。1～3年生は、昨年度に比べよくなっている。高学年は「挨拶はできてきているが、自らすすんで行うまでは至っていない」という点が課題である。	「気持ちのよい挨拶がよりよい人間関係づくりにつながる」ことをより意識させ、自ら進んで挨拶できるように、全校朝会や学級指導の中でより指導を進めていく。	朝の挨拶がとても素晴らしいので、今後も指導を続けてほしい。教員も大きな声で挨拶し、範を示すべきである。		
		実践力の育成	「学校の決まりを守る」児童（自己評価）80%を目指す。	A	A	昨年度より肯定的な回答をしている児童が増えた。これは、全ての教育活動を通じて人権教育や心の教育の推進を図ってきた成果が着実に表れていると考えられる。	日頃から丁寧に児童理解を行うとともに、実生活に活かせる人権教育や道徳の授業を推進する。また、規範意識の向上に努めていく。	思いやりの心を育てるためには、家庭でも学校でも大人が範を示すべきである。		
○自分も友達も大切に ○正しく判断し行動 できる子	健康への関心と実践力を高める	体力の向上を目指す	規則正しい生活習慣の家庭への啓発	「健康チェックシートで健康状態を確認できる」児童（自己評価）90%を目指す。	A	A	ほぼ全員の児童が健康カードを毎朝提出し、自身の健康状態を考えながら登校している。また、体調の変化がある場合は担任や養護教諭に伝えることができていく。	保護者との連携を強化する。また、学校でも日々の生活指導や保健指導を通して、児童が健康で豊かな学校生活を過ごせるように指導・支援していく。	コロナ禍の中でも、学校に毎日通えていることは素晴らしい。今後も健康を保つための指導を継続してほしい。	
			健康的な体作りや体育授業の充実	体幹の強化…正しい姿勢で座ることのできる児童を90%にする。	B	B	児童は概ね75%が肯定的な回答をしており、保護者や教職員の意識も高まっている。授業中の姿勢が悪い児童も見受けられるので、今後は90%を目指したい。	コーディネーショントレーニングや正しい姿勢の教室掲示を継続して、「姿勢のよさが体力向上や自身の健康につながる」ことが実感できるよう指導する。	姿勢がよくない児童が何人かいたが、どの学年においても授業に取り組む姿勢は素晴らしかった。	

達成状況の指標 A: 90%～100% B 80%～90% C ~80%